

豊田綱領・基本理念

豊田綱領・基本理念に基づき価値創造を行うことで、
住みよい地球と豊かな生活、そして温かい社会づくりに貢献していきます。

豊田綱領(社是)

豊田佐吉翁の遺志を体し

- 一、 上下一致、至誠業務に服し、産業報国の実を挙げべし
- 一、 研究と創造に心を致し、常に時流に先んずべし
- 一、 華美を戒め、質実剛健たるべし
- 一、 温情友愛の精神を發揮し、家庭的美風を作興すべし
- 一、 神仏を尊崇し、報恩感謝の生活を為すべし



当社では、社祖・豊田佐吉の精神をまとめた豊田綱領を社是とし、これをもとに基本理念を定めました。

基本理念

【公明正大】

内外の法およびその精神を遵守し、公正で透明な企業活動を実践する

【社会貢献】

各国、各地域の文化や慣習を尊重し、経済・社会の発展に貢献する

【環境保全 品質第一】

企業活動を通じて住みよい地球と豊かな社会づくりに取り組むとともに、
クリーンで安全な優れた品質の商品を提供する

【顧客優先 技術革新】

時流に先んずる研究と新たな価値の創造に努め、お客様に満足していただける商品・サービスを提供する

【全員参加】

労使相互信頼・自己責任を基本に、一人ひとりの個性と能力を伸ばし、
全体の総合力が発揮できる活力ある企業風土をつくる

ごあいさつ

平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

当社が2023年3月17日に公表いたしましたフォークリフト用エンジン認証での法規違反につきまして、
お客様をはじめ、多くの関係者の皆様に多大なるご迷惑をおかけしておりますこと、心より深くお詫び申し
あげます。

本件の全容や要因・背景、再発防止策について、取りまとめを進めるとともに、お客様、仕入先様を始めと
した関係者の皆様のご不便の解消に、全社を挙げて取り組んでおります。ステークホルダーの皆様に対しま
しては、ていねいなご説明、情報開示に努めてまいります。ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2022年度の経済情勢を概観しますと、世界経済は、新型コロナウイルス感染拡大防止のための活動制限の
緩和などにより回復がみられたものの、ウクライナ情勢の影響による原材料、エネルギー価格の高騰を発端
とした世界的なインフレ進行、各国の政策金利の引き上げに伴う景気後退懸念の高まりなど、先行き不透明感
が高まりました。このような情勢の中で、当社グループは、各市場の動きに的確に対応して、販売の拡大に
努めることで、前年度に対し増収・増益となりました。

期末の配当金につきましては前年度から10円増加の100円とし、年間では前年度から20円増加の190円
とさせていただきます。なお、株主の皆様が期末配当金を早くお受け取りできるよう、昨年度と同様、株主
総会での決議ではなく、取締役会での決議といたしました。

取り巻く環境をみますと、世界経済は先行きの不透明感が増しており、また、カーボンニュートラル実現に
向けた世界的な取り組みの加速、デジタル化の進展など、政治、経済、テクノロジーの分野における変化の
スピードが増しています。こうした中、当社においては、安全、コンプライアンスの再徹底に努め、より強固な
経営基盤の構築を進めるとともに、革新的な技術・商品開発を通じて企業価値の向上をはかっていく所存です。

皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2023年7月

取締役会長

豊田鉄郎

取締役副会長

大西朗

取締役社長

伊藤浩一

豊田自動織機グループのあゆみ

当社は、豊田佐吉が発明したG型自動織機の生産と販売、および発明と研究を主目的として設立されました。
世の中のお役に立つモノづくりを通じて社会の発展に貢献する、という佐吉の精神を受け継ぎ、
時代の変化を捉え柔軟に対応することで、持続的な成長に努めていきます。



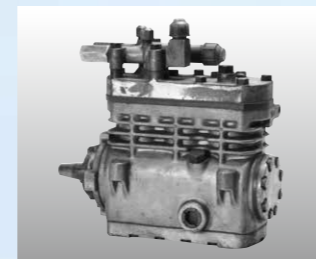
G型自動織機生産



S型エンジン生産開始

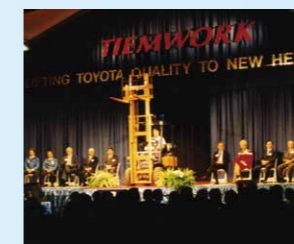


フォークリフト生産開始



カーエアコン用コンプレッサー生産開始

(年度) 1926 1930 1950 1955 1960 1965 1970 1975 1980



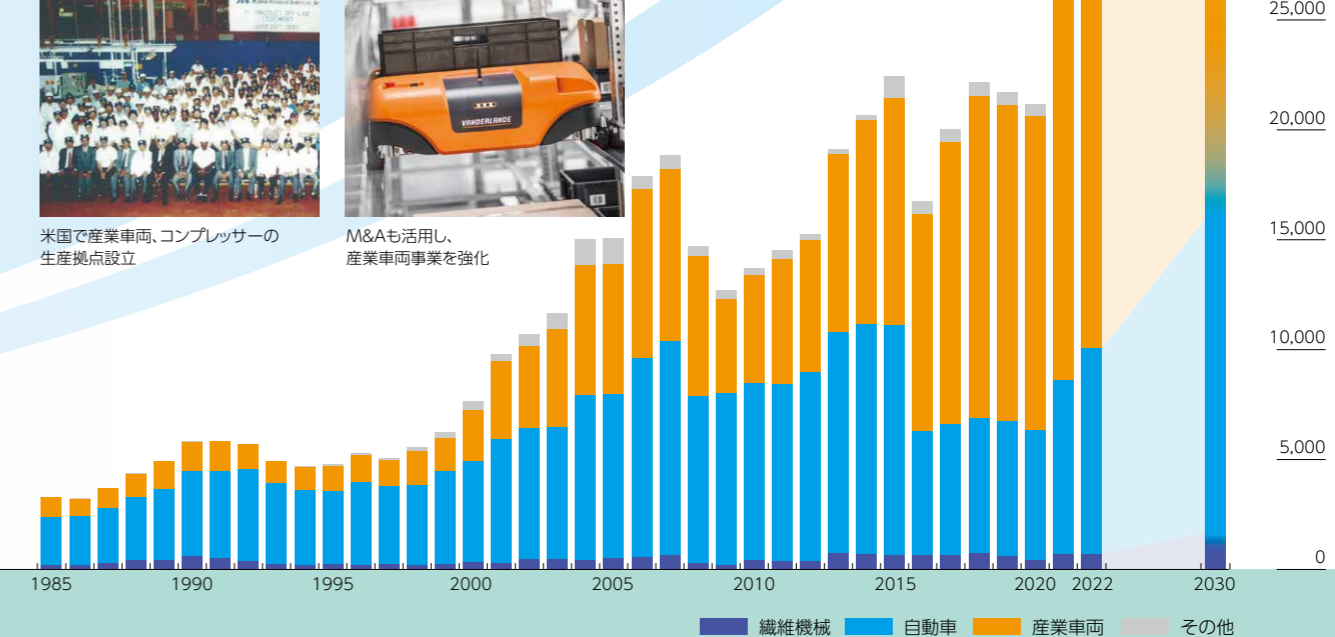
米国で産業車両、コンプレッサーの生産拠点設立



M&Aも活用し、産業車両事業を強化



電池事業開始



1926~

[創業期]

1953~

[事業の多角化と規模拡大]

創業期 1926~

- 1926年 G型自動織機を生産・販売を目的に、当社設立
- 1935年 大衆乗用車A1型の試作車完成
- 1937年 自動車部を分離し、トヨタ自動車工業(株)(現トヨタ自動車(株))設立
- 1940年 製鋼部を分離し、豊田製鋼(株)(現愛知製鋼(株))設立

事業の多角化と規模拡大 1953~

- 1953年 S型エンジンの生産開始、自動車の組立開始
- 1954年 メキシコ豊田設立 当社初の海外進出、取り巻く環境の変化により1961年撤退
- 1956年 フォークリフトの生産開始 事業の多角化をねらい、S型エンジンを活用した新規事業の一環としてスタート
- 1958年 農業機械事業開始 事業の多角化の一環として進出したものの、性能の不安定さや販売面の未熟さにより、1966年に撤退
- 1960年 カーエアコン用コンプレッサーの生産開始
- 1967年 事業のさらなる拡大に向け、小型商用車生産のために長草工場操業開始

海外展開の本格化 1988~

1988年 海外生産を本格化 各事業で進展する海外での需要拡大に対応

戦略的M&Aも活用した事業領域の拡大 2000~

- 2000年 産業車両のさらなる事業拡大に向け、BTインダストリーズを子会社化
- 2001年 トヨタ自動車の産業車両事業販売部門を譲受、製販統合
- 2003年 トヨタの2代目プリウス向けに、電動コンプレッサーを世界で初めて量産開始 電動車の拡大に対応
- 2011年 コンプレッサーおよびフォークリフトを中心に、インドネシアやブラジルなど、新興国への工場進出加速
- 2017年 蘭ファンダラン社と米バステアン社を子会社化し、物流ソリューション事業を強化 高まる物流の効率化・自動化ニーズに対応
- 2021年 ハイブリッド車用のパイボラー型ニッケル水素電池の生産開始 2022年には電池生産工場として石浜工場の操業開始

事業の概要

当社の持つリソースと強みをもとに、産業車両、自動車、繊維機械の各事業の成長をはかるとともに、事業間のシナジーを活かすことにより、さらなる競争力強化に努めています。



産業車両

フォークリフト

世界トップシェア*のフォークリフトを中心とする産業車両の企画、開発、生産、販売、アフターサービスを展開。販売金融や物流効率化のご提案などと合わせ、お客様のあらゆるニーズにお応えしています。



電動フォークリフト

物流ソリューション

バスティアン社、ファンダランデ社、当社のそれぞれの強みを活かして連携し、幅広い物流機器やシステムを組み合わせ、お客様の物流課題の解決に貢献しています。



高速保管・ピッキング装置



空港手荷物搬送
(バゲージハンドリング)システム

自動車

車両

トヨタグループトップクラスのSEQCD (S:安全、E:環境、Q:品質、C:コスト、D:納期)を強みとし、国内外向けRAV4の企画、開発、生産を行っています。



RAV4 Adventure

エンジン

企画、開発、生産の体制を敷く自動車用ディーゼルエンジンに加え、ガソリンエンジンや産業用エンジンも生産しています。



ディーゼルエンジン



ハイブリッド車用
ガソリンエンジン

カーエアコン用コンプレッサー

小型・軽量・省燃費などの環境性能、高速回転時の信頼性や静粛性が高く評価され、販売台数シェアは世界No.1*です。



電動コンプレッサー



燃料電池自動車用酸供給エアコンプレッサー

電子機器ほか

ハイブリッド車をはじめとする幅広い電動車向けエレクトロニクス商品や、車載用電池の企画、開発、生産を行っています。



DC-DCコンバーター



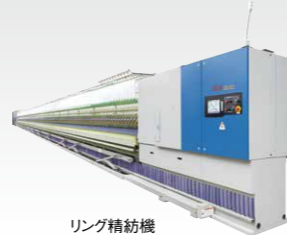
バイポーラ型ニッケル水素電池

繊維機械

繊維の束に撚りをかけて糸を紡ぐ紡機と紡いだ糸で布を織る織機の企画から開発、生産、販売、アフターサービスまで一貫して行っています。



エアジェット織機



リング精紡機

*：自社調べ。

目次

ESGの推進	
環境への取り組み	
環境マネジメントの推進	34-37
脱炭素社会の構築	38-40
循環型社会の構築	41-43
環境リスク低減と自然共生社会の構築	43-45
ステークホルダーとの関わり	
お客様との関わり	46-47
取引先との関わり	48-49
株主・投資家の皆様との関わり	50
従業員との関わり	51-55
地域社会との関わり	56-57
コーポレート・ガバナンス	
ガバナンス体制	58-61
政策保有株式/内部統制	62
サステナビリティ推進体制	62-63
人権の尊重	63-65
コンプライアンス	66-68
税務ガバナンス	69
情報セキュリティ	69-70
リスク管理	71-72
当社の知的財産活動	73
取締役、監査役、副社長・経営役員および執行職	74-75
企業情報・財務情報	
主な拠点	76-77
連結財務・非財務ハイライト	78-79
11年間の連結財務サマリー	80-81
財務諸表	82-85
会社・投資家情報	86-87
豊田綱領・基本理念	表紙の裏
ごあいさつ	1
豊田自動織機グループのあゆみ	2-3
事業の概要	4
目次	5
トップメッセージ	6-11
価値創造	
価値創造の流れ	12-15
社会課題の解決と企業価値向上に向けた取り組み	16-17
成長への取り組み	
事業の取り組み	
産業車両事業	18-23
自動車	24-31
車両	25
エンジン	26
カーエアコン用コンプレッサー	27-29
電子機器ほか	30-31
繊維機械	32

編集方針	幅広いステークホルダーの皆様への当社に対する理解を深めていただくことを目的に、2007年度より「アニュアルレポート」と「社会・環境報告書」を統合し、「豊田自動織機レポート」として発行しています。豊田自動織機グループの経営方針に加え、事業、環境、社会、コーポレート・ガバナンスの各分野における1年間の取り組みや今後の方向性などを、読者の皆様によりわかりやすくお伝えできるよう心がけました。
報告対象期間	2022年度(2022年4月から2023年3月)の活動を中心に記載していますが、一部対象期間外の内容も紹介しています。
報告対象の組織	当社および連結子会社を含めた当社グループを対象としています。
参考にしたガイドライン	<ul style="list-style-type: none"> ● GRIスタンダード ● ISO26000 ● 環境省「環境会計ガイドライン2005年版」 ● 環境省「環境報告ガイドライン(2018年版)」 ● IFRS財団「国際統合報告フレームワーク」

「豊田自動織機レポート2023」PDFについて

このPDFファイルは、関連する[\(ウェブサイト\)](#)や[\(動画ページ\)](#)にリンクしています。

■使い方

ページ内のをクリックすると、関連するサイトをご覧ください。

またQRコードをスマートフォンで読み取ると、関連するサイトをご覧ください。

※インターネットに接続した状態でご利用ください。

将来見通しに関する記述についての注意

本レポートには、リスクや不確実性を伴う予測や将来に関する記述が含まれています。これらは「見直し」、「見込み」、「予想」、「予測」、「計画」などの表現を使って記載されています。予測や将来に関する記述とは、当社(連結子会社を含む)の今後の計画、見込み、戦略、将来における当社の業績に関する現在の見直しや予想に基づいています。これらの予測や将来に関する記述は、現在入手可能な情報から得られた当社経営者の仮定および判断に基づいており、将来の業績を保証するものではありません。また、当社や当社グループは、新たに入手した情報や今後起こり得る事象をもとに、これらの将来に関する記述を公的に更新したり改訂する義務を負いません。従って、これらの予測や将来に関する記述のみに全面的に依拠することは控えてください。また、実際の業績は、さまざまなリスクや不確実性により、本レポートに記載している予測や将来に関する記述と大きく異なる結果となり得ることをご承知ください。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実性には、以下のようなものが含まれますが、これらに限定されるものではありません。(1) 特定の販売先への依存度、(2) 商品開発力、(3) 知的財産権、(4) 商品の欠陥、(5) 価格競争、(6) 原材料、部品供給元への依存、(7) 環境規制、(8) 他社との提携の成否、(9) 為替レートの変動、(10) 株価の変動、(11) 災害や停電などによる影響、(12) 国際的な活動に潜在するリスク、(13) 退職給付債務